

投稿規程

1. 投稿論文は未発表のものであること。ただし、すでに口頭で発表したものはその限りではない。
2. 投稿論文の長さは、和文の場合はA4版用紙に35字×35行で10枚を、欧文の場合はA4版用紙に1枚ストロークバツ50行で10枚をめやすとする（文献書誌を含む）。
3. 論文はフロッピーとともに3部提出すること（2部はコピーでも可）。なお、提出の際には、シノプシス（タイプ用紙1枚程度）1部を別紙添付する。
4. 原稿の校正は著者の責任として三校までとする。校正は字句の訂正にとどめる。
5. 論文の採否は編集委員会の責任において決定する。
6. 書式上の注意
 - ①注は原稿の末尾にまとめてつける。
 - ②外国の人名、地名、書名は少なくとも初出の箇所で原名を示す。
7. 掲載論文の著者用抜刷は30部までを無料とする。
8. 本誌（電子版を含む）に掲載された論文等の著作権（複製権および公衆送信権）は、岩手県立大学言語文化教育研究センターに帰属する。ただし、著者が本誌掲載論文等を転載する場合は、事前に申し出を行い、さらに出典を明示すること。

編集後記

第7号を上梓いたします。今回はアメリカ、ロシア、イギリスそして日本に関する様々な分野からの論文6本が集まりました。岩手県立大学も7年目が終わり、法人化を控えあわただしい時です。新学長、新理事長も決まり、新しい体制へ向けてのスタートが今まさに始まろうとしています。彼方に目を向ければ、アメリカではジョージ・ブッシュ大統領が2期目に再選されました。今回はアメリカ人の宗教、道德感が選挙の争点となり、まさに二つのアメリカがあることを実感させられました。またP L Oのアラファト議長死去もあり、歴史の流れの中にいることを痛感いたします。私たちもこの世界の中で確実な歩を進めたいと説に願います。（R K）

紀要編集委員：栗原涼子・高野泰志・志柿禎子